



## 経験者は語る その3

昨日、とりあえず三者面談（二者面談）が一通り終了した。正直、ホッとしている。まだ、一部結論が持ち越しになっている諸君もいるが、それぞれ早めに行える範囲で結論を出し、カレンダーを担任に提出した上で、勉強の方に邁進してほしい。もちろん、最終的な決定に向けて、まだ迷っていることや知りたいデータがあれば、いつでもイイから遠慮なく声をかけてくれて構わない。とにかく、やるべき課題に没頭できる環境をつくろう。

\*

私は蠟人形（浪人形）であったわけだが、その一番の原因は簡単で、「勉強不足」にはほかならない。前から言っているとおり、その大学での学問についていくだけの準備ができていないから入試に落ちるわけで、落ちたら素直に「勉強不足である」ということを認めるしかないだろう。その大学に入りたいと思ったら、その大学の学問についていけるだけの基礎力をつけるしかないのである。

ところで、なんで勉強不足になったのかといえば、それはまあ色々理由はあるが、今から振り返ると、11月のこの時期に志望校のことでユラユラしていたというのも大きな理由だと思うのである。

私はもともと日本史の教員になりたくて、志望校としては東京教育大学を考えていた。ところが、私が受験する前年に筑波大学になってしまい、都内からキャンパスが移転してしまったのである。私が高校時代に尊敬していた日本史の先生は、家永三郎（東京教育大学、教科書裁判で有名）の愛弟子で、その先生自身、後に静岡大学の教授になったのだが、その先生に相談したところ、イイ教授はみんな

筑波にはいかないとのことで、3年生になった当初は、第一志望として京都大学を目指すことにした。日本史でも特に文化史を勉強したいと思っていたので、多くの文化的遺産に直接触れられるというのが大きな理由である。相談していた先生も「新幹線で3時間もかからないし、文化史を勉強する環境としてはイイだろう」とアドバイスしてくれた。

しかしちょうど今ごろ、思うように成績が伸びないこともあって弱気になり（We370・371号「経験者は語るその1・2」参照）、筑波にしようかな…と思い始めてしまったのである。私の親も（多くの君たち保護者同様）、受験に関しては本人に任せるというスタンスだったので、特に反対することはなく、それでは筑波で…ということに一度決めたのだが、いよいよ願書を取り寄せたり、京都を受けるならその宿や新幹線の手配をしなければという時期になってきたりすると、やっぱり京都を！という気持ちが強くなって、年が明けてから、結局志望校を元にもどすことにしたのである。それにともなって宿の手配をしたり、新幹線の切符を手配したりして、（合間に私立の出願もしたりして）ドタバタしながら受験の時期を迎えてしまった、というのが私の現役受験であった。

今振り返れば、このドタバタも蠟人形となった一因だったと思う。誰にでも志望校が揺れることはあるだろう。それは仕方ない。でも、揺れた後で出した結論については、しっかり責任を持つ、つまり、一心不乱に目標に向かって突き進むことが大切だ。この時期、そんなことを経験者として伝えておきたい。